

地域再生計画

1 地域再生計画の名称

スポーツによるまちづくり～ロートフィールド奈良夜間照明整備～

2 地域再生計画の作成主体の名称

奈良県奈良市

3 地域再生計画の区域

奈良県奈良市の全域

4 地域再生計画の目標

4-1 地方創生の実現における構造的な課題

本市のスポーツの拠点であるロートフィールド奈良には現在夜間照明が整備されていない。このことにより、当該競技場の活用によるスポーツを通じた本市の創生が困難となっている。具体的には下記のような課題が存在している。

①陸上競技大会や練習などの施設利用は昼間に限られているだけでなく、全国規模の大会誘致が困難である。

②当該競技場が竣工した1983年と2022年の7月の気温の月平均値を比較すると2.4℃上昇していることから見て取れるように、近年の夏季の気温は上昇し連日猛暑日が続くことも珍しくない。このような酷暑の中、昼間に競技大会や練習を実施することは競技者や審判、観客などの体調管理に影響を及ぼし、熱中症になる危険性が非常に高くなる。特に自身で体調管理が困難な小学生や高齢者も多いマスターズ選手への熱中症対策として、高温の時間帯を避けた夕方以降に競技を実施することが望ましい。様々な世代の利用者が健康で生き生きと充実した生活を送るためには、夜間照明により暑熱対策がとられた施設の整備が急務である。

③Jリーグのスタジアム基準改正により、2024年シーズン開幕までに夜間照明を整備することがJ3ライセンス交付の条件となっており、夜間照明が未設置であるとJ3ライセンスが未交付となる。その結果、奈良クラブのJリーグ入会が取り消され、Jリーグの試合開催ができずスポーツを「見る」「支える」というスポーツへの参画機会が減少し、Jリーグ参入で高まったサッカーを中心としたスポーツを応援する機運が低下することに加え、試合観戦をきっかけとした市内外からの観光客の減少に繋がり、地域経済の沈滞や交流人口の減少など地方創生への逆効果となる。上記のような課題を克服するために夜間照明を当該施設に整備し、本市の創生を推し進めていく。

4-2 地方創生として目指す将来像

【概要】

ロート奈良鴻ノ池パーク（鴻ノ池運動公園）は、本市中央市街地に位置し他地域からのアクセスも良く、無料の駐車場も備えており多くの市民が訪れている（パーク内体育施設利用者数513,228人（令和3年度））。またパーク内には、体育館や野球場、武道場、テニスコートなど多くのスポーツ施設を備えており、その中でもロートフィールド奈良（鴻ノ池陸上競技場）は奈良県唯一の第一種公認陸上競技場であり、数多くの陸上の大会が開催されるほか、2022年のJFL（日本フットボールリーグ）で優勝し奈良県初のJリーグチームとなり、2023年シーズンよりJ3リーグに参入する奈良クラブのホームスタジアムとなっているなど、広く市民から活用されるスポーツの中心となる施設である。

本市では「TopSportsCity奈良」と称し、本市をホームタウンとして活動する各スポーツ競技のトップチーム（バンビシャス奈良：バスケットボールB2リーグ、奈良クラブ：サッカーJ3リーグ、奈良ドリーマーズ：バレーボールV3リーグ、南都銀行SHOOTINGSTARS：ホッケー日本リーグ）をパートナーと認定し、スポーツの素晴らしさを伝え、本市のスポーツ振興・推進に寄与し、青少年の健全育成や地域活性化、その他社会貢献を図ることを目的とした活動を行っている。また、本市は多くの文化財等を有する観光都市であり、寺社仏閣や奈良市観光協会などと連携し、これまでも観光産業の発展に注力してきた。2025年には大阪・関西万博開催が控えおり、ロート奈良鴻ノ池パークに隣接する重要文化財奈良監獄では、民間ホテル開業も予定されている。こうしたなか、世界遺産や主要駅からのアクセスも良い、ロート奈良鴻ノ池パークのポテンシャルを生かし、拠点となる施設の機能を新たに強化することで、誰でも、いつでも、ライフステージや運動ニーズに合わせたスポーツを楽しめる環境を整え、スポーツ文化の更なる普及を図るとともに、スポーツツーリズムの推進による交流人口拡大や市域経済の活性化など本市の創生を目指す。

【数値目標】

KPI①	ロートフィールド奈良の利用者数						単位	人
KPI②	奈良クラブホームゲーム平均観客数						単位	人
KPI③	宿泊客数						単位	人
KPI④	-						単位	-
	事業開始前 (現時点)	2023年度 増加分 (1年目)	2024年度 増加分 (2年目)	2025年度 増加分 (3年目)	2026年度 増加分 (4年目)	2027年度 増加分 (5年目)	KPI増加分 の累計	
KPI①	147,543.00	0.00	5,000.00	1,500.00	1,500.00	1,500.00	9,500.00	
KPI②	560.00	1,000.00	200.00	100.00	100.00	100.00	1,500.00	
KPI③	1,740,000.00	50,000.00	50,000.00	50,000.00	50,000.00	50,000.00	250,000.00	
KPI④	-	-	-	-	-	-	-	

5 地域再生を図るために行う事業

5-1 全体の概要

5-2の③及び5-3のとおり。

5-2 第5章の特別の措置を適用して行う事業

○ 地方創生拠点整備タイプ（内閣府）：【A3016】

① 事業主体

2に同じ。

② 事業の名称

ロートフィールド奈良夜間照明整備事業

③ 事業の内容

【施設整備概要】

ロートフィールド奈良の第一種の継続認定や夜間の利用拡大、Jリーグスタジアム基準を満たす為、夜間照明を整備する。

・第一種公認陸上競技場基準：1m220の高さで平均照度が1000Lx程度とし、フィニッシュラインは1500Lx以上を確保

・Jリーグスタジアム基準：ピッチ内いずれの個所においても照度1500Lx以上の明るさを保持し、均一（色温度5000～6200ケルビン）

【利活用方策】

○陸上競技

競技実施可能時間の延長に伴う大規模な陸上競技大会の誘致や近年の温暖化への暑熱対策、市民の平日利用などスポーツができる環境整備、健康増進に繋げる。

大規模な陸上競技大会においては他府県より選手や観戦者の来場が見込め、本市のシティセールスや観光等を通じた交流人口増加、地域経済活性化に繋げる。

○サッカー（奈良クラブ）

Jリーグのスタジアム基準を満たすことでJリーグ公式戦開催が可能となり、プロスポーツを見る機会を設け、その魅力を生かすことによる来訪者の増加を見込めるとともに夜間に試合を開催することでアウェーサポーターの宿泊の増加も望め、スポーツツーリズムへの発展を期待できる。またスポーツによる地域の一体感を醸成することで、経済面だけでなく地域コミュニティの維持・再生に影響が及び、本市の創生に繋がる。

その他、施設の運営面では夜間利用による施設使用料や照明使用料の増加が見込めるほか、当該陸上競技場があるロート奈良鴻ノ池パーク周辺では「奈良市鴻ノ池運動公園及び旧奈良監獄が連携した奈良の新たなイメージ発信拠点プロジェクト」も同時に進めており、新たに建設される旧奈良監獄を活用したホテルや物産施設、パーク内に設置予定の（仮称）スケードボードパークや新たなランニング・ウォーキングコースとも連携を図り、観光面や健康増進面で相乗効果を発揮するような取組を進めていく。さらに、現在誘致している全国ラグビー大会の合宿だけでなく、供用時間が拡大することのメリットを生かし、奈良市観光協会等とも連携してスポーツ合宿の誘致を推進する。

④ 事業が先導的であると認められる理由

【自立性】

夜間照明の整備により、陸上競技大会やサッカーの試合などを昼夜問わず開催でき、また平日も個人を含めた使用者が増えることから使用料収入の増加を見込むことができる。使用者数、使用料の増加の具体的な方策として、陸上競技やサッカー、ラグビー競技の各団体と連携を図り、夜間のスポーツ教室を開催することや競技大会誘致を進める。また、奈良クラブの公式戦を開催できることで、施設の使用料収入の増加を見込めるほか、奈良クラブ自体のチケット収入なども増え、クラブの安定した運営にも寄与する。照明設置による夜間利用が可能となる事から、人件費や電気代などの維持管理費を含めた指定管理料が増加するものの、前述の施設使用料や照明使用料の増加により収支として増収を見込み、施設の維持管理を安定的に行える。また現在、指定管理者制度を導入し施設の維持管理費は指定管理料で賄っているが、今後はさらに自立性を高めるため利用料金制の導入について検討する。

※下記表の支出はロートフィールド奈良等11施設（陸上競技場、鴻ノ池球場、鴻ノ池コート、中央体育館、中央第二体育館、南部生涯SC体育館、南部生涯SC球場、南部生涯SCコート、南部生涯SC多目的コート、柏木球場、柏木コート）の指定管理料全額。事業収入はロートフィールド奈良のみの使用料収入

【官民協働】

本市の夜間照明設置に対し理解を示し、地域振興に協力を得られる企業（特に奈良クラブのスポンサー企業）などから企業版ふるさと納税（地方創生応援税制）や一般寄附などの受け入れ、民間資金も活用し財源とする。当該施設は指定管理者制度により民間企業が運営・管理を行っている。現在も昼間を活用した自主事業を行っているが、陸上やサッカーなどの競技団体とさらに連携し、ナイトランや夜間のサッカー教室などの自主事業の更なる展開も可能となる。また、年末年始に開催される全国ラグビー大会の合宿を奈良市観光協会と連携し誘致しているが、夜間照明設置により供用時間が拡大されることから、当該協会などとさらに連携を深め、スポーツ合宿誘致を推し進める。さらに、奈良クラブはこれまでも地域貢献に積極的であり、本市とも様々な事業を協力して行っているが、今後もホームゲーム開催時のサッカー教室実施など、市民へのサッカーの普及や選手との触れ合いの場を設け、スポーツへの参加やサッカー観戦へのきっかけづくりを行い、地域のスポーツ振興を図る。

【地域間連携】

ロートフィールド奈良は奈良県唯一の第一種公認陸上競技場であり、奈良県や近畿レベルの陸上競技大会を多く開催している。その際には奈良県ひいては近畿圏より選手、関係者が多く訪れ、地域の発信や交流人口の増加に繋がっている。奈良クラブは本市以外に奈良県がホームタウンであり、さらに練習場がある田原本町や三郷町、下北山村とは包括連携協定を結んでおり、ホームゲームには、県内各所よりサポーターが観戦に訪れる。さらに対戦相手のサポーターは全国各地から観戦に訪れる。ホームゲーム開催に合わせて各市町村がブース出展を行い、事業や地域のPRなど情報発信を行うことで、本市だけではなく奈良県全体の魅力を多くの人に伝えることができる。その情報を得た方が観光などその地域を訪れることで本市以外にも奈良クラブのホームゲーム開催による経済効果が及ぶ。また、本市は隣接する京都府木津川市と府県を超えた連携・協力に関する包括協定を締結している。協定では、互いの持つ資源や特性を生かしながら、それぞれの地域の活性化及び持続的成長に向けた取組を推進していくこととしており、相互に豊富にある文化財などの観光資源を活用したスポーツツーリズムへの連携した取組を検討している。

【政策間連携】

本市は東大寺や興福寺などの世界遺産を含む多くの文化財を有する観光都市であり、日本国内はもとより海外からの観光客も多い。しかし、宿泊者数は少なく日帰り観光が主である。そこで奈良クラブの試合開催によりアウェーサポーターの観光が望めることに加え、夜間開催となると奈良市内での飲食・宿泊も期待できる。奈良クラブの試合開催に合わせて、観光案内を強化することや奈良市観光協会等と連携することでスポーツだけでなく観光分野にも好影響が波及し、地域の発信や宿泊・飲食の増、観光消費の増などの経済効果が見込める。

また、当該陸上競技場があるロート奈良鴻ノ池パーク周辺では「奈良市鴻ノ池運動公園及び旧奈良監獄が連携した奈良の新たなイメージ発信拠点プロジェクト」と題した事業も進めており、旧奈良監獄を活用した新たなホテルや物産施設、パーク内に（仮称）スケードボードパークやランニングコースの整備を予定している。これまでの「スポーツを行う」、「スポーツを見る」に、ホテルや物産施設の利用、新たなスポーツ施設の活用を足し合わせ、観光面や健康増進で相乗効果を発揮するような取組を進めていく。

【デジタル社会の形成への寄与】

内容①

本市のSNSや市内各駅に設置しているデジタルサイネージを活用した広報。

理由①

これまでイベントなどの情報はしみんだよりやチラシなどの紙媒体や、知人など人づての伝聞からの収集が多かったが、SNSやデジタルサイネージを活用した広報で、年齢・性別・経済的な状況に関わらずより多くの人が情報を得ることが可能となる。ロートフィールド奈良で開催されるイベントや大会、奈良クラブの試合情報やスポーツ教室の広報をこれらを活用して行うことで、広く市民に周知することが可能となる。

内容②

奈良クラブの試合のDAZN（ビデオオンデマンドサービス）を通じた配信。

理由②

Jリーグの試合はデジタル技術を活用し、DAZNで日本全国に配信されている。競技場に直接足を運ばなくとも奈良クラブの試合を時間や場所に関係なく観戦でき、スポーツに触れる機会や奈良クラブの認知の拡大を図り、スポーツの振興、地域の活性化に繋げる。

内容③

該当なし。

理由③

⑤ 事業の実施状況に関する客観的な指標（重要業績評価指標（KPI））

4-2の【数値目標】に同じ。

⑥ 評価の方法、時期及び体制

【検証時期】

毎年度 9 月

【検証方法】

「奈良まち・ひと・しごと創生総合戦略懇話会」において、KPIの達成度のほか、事業の進捗及び効果について、外部有識者等の視点から客観的な検証を行う。その内容を踏まえ、将来に向けて持続可能な事業構造になっているかの事業方向性を確認し、状況に応じて見直しを行うとともに、次年度の事業計画及び予算に反映させ改善に繋げる。

【外部組織の参画者】

学識経験者、有識者、活動実践者、金融機関など

【検証結果の公表の方法】

検証後、速やかに奈良市ホームページで公表する。

⑦ 交付対象事業に要する経費

- ・ 法第5条第4項第1号イに関する事業【A3016】
総事業費 624,800 千円

⑧ 事業実施期間

地域再生計画の認定の日から 2028 年 3 月 31 日 まで

⑨ その他必要な事項

特になし。

5-3 その他の事業

5-3-1 地域再生基本方針に基づく支援措置

該当なし。

5-3-2 支援措置によらない独自の取組

(1) 「TopSportsCity奈良」パートナー事業

ア 事業概要

本市ではスポーツの素晴らしさを伝え、本市のスポーツの振興・推進に寄与し、青少年の健全育成・地域の活性化・その他社会貢献等を図ることを目的として、本市をホームタウンとして活躍する各スポーツ競技のトップチーム（奈良クラブ（サッカー）、バンビシャス奈良（バスケットボール）、奈良ドリーマーズ（バレーボール）、南都銀行SHOOTINGSTARS（ホッケー））を「Top Sports City奈良」のパートナーとして認定し様々な事業を協力して行っている。
今後もふるさと納税制度の活用や広報活動などの支援を継続するとともに、学校巡回教室や社会貢献事業などを協力して行い、地域活性化を行う。

イ 事業実施主体

奈良市

ウ 事業実施期間

2023 年 4 月 1 日から 2028 年 3 月 31 日 まで

(2) スポーツ振興事業

ア 事業概要

ロートフィールド奈良の利活用推進のため市民スポーツ大会やスポーツ体験フェスティバル等のスポーツイベントを開催し、市民のスポーツに触れる機会を増やす。また夜間利用を促進するため、競技団体とも協力し教室などを催し、SNSやデジタルサイネージを活用して市民への周知を図る。

イ 事業実施主体

奈良市

ウ 事業実施期間

2023 年 4 月 1 日から 2028 年 3 月 31 日 まで

(3) 該当なし。

ア 事業概要

イ 事業実施主体

ウ 事業実施期間

年 月 日から 年 月 日 まで

6 計画期間

地域再生計画の認定の日から 2028 年 3 月 31 日 まで

7 目標の達成状況に係る評価に関する事項

7-1 目標の達成状況に係る評価の手法

5-2の⑥の【検証方法】及び【外部組織の参画者】に同じ。

7-2 目標の達成状況に係る評価の時期及び評価を行う内容

4-2に掲げる目標について、5-2の⑥の【検証時期】に
7-1に掲げる評価の手法により行う。

7-3 目標の達成状況に係る評価の公表の手法

5-2の⑥の【検証結果の公表の方法】に同じ。